

佐久穂町議会「町民との意見交換会」報告書

佐久穂町議会町民との意見交換会
実行委員会 委員長 出浦修身

去る11月27日に佐久穂町議会が開催した「佐久穂町議会と町民との意見交換会」には、ご多忙の中、大勢の町民の皆様にご参加いただき誠にありがとうございました。実行委員会では12月19日に会議を開き、意見交換会の振り返り評価を行ったので概況について以下のとおり報告いたします。

1. 意見交換会の実施概況

(1) 概要

開催日時：令和4年11月27日（日）午後0時55分～午後4時20分

開催場所：佐久穂町生涯学習館「花の郷・茂来館」メリアホール ほか館内

受付参加人数：132名

(2) 項目ごとの参加概況

① プロローグ：佐久穂中学校 吹奏楽部 演奏 午後0時55分～1時25分 場所：メリアホール 参加者：約120名

② 基調講演：「みんなで創る佐久穂の未来」 場所：メリアホール
講師：元長野県副知事 中島恵理氏 参加者：約100名

③ 分科会：午後2時50～3時50分 総参加者数：93名

Aグループ：地方政治に未来 視聴覚室 一般 10名 議員 4名 計 14名

Bグループ：佐久穂の未来 小会議室 一般 20名 議員 4名 計 24名

Cグループ：子どもの未来 中会議室 小学生 6名 中学生 26名 一般 20名 議員 3名 計 55名

④ 分科会の発表と講評 メリアホール 午後3時50～4時20分 発表 各グループ・チームリーダー
講評 元長野県副知事 中島 恵理 氏 参加者：約90名

⑤ 閉 会 午後4時20分

2. 意見交換会の振り返り・評価と課題

(1) 全体の評価・振り返り

- ・初めての企画だが、多くの町民に参加頂き沢山の意見を聞くことが出来た。参加者の感想は総じて好意的な評価を頂いた。
- ・プロローグや分科会に小・中学生の参加を得たことが、イベント成功の大きな要因であった。また、児童・生徒の活動や意見を知る機会ともなり、今後も教育委員会や小中学校との協力・連携を推進したい。
- ・時間が足りなかったり、テーマの絞りなど幾つか課題は有るが、町民の多様な意見を聞くことが出来、また議会を知ってもらえる機会となり、大変良かった。
- ・参加者の発言や感想でも、意見交換の機会を望んでおり、議会としても町民に議会を知ってもらい開かれた議会を目指す上で、議会報告会、意見交換会を毎年定例的な実施が望ましく、実施に向け検討を提案することとした。

(2) イベント項目ごとの評価振り返り

① プロローグ：佐久穂中学 吹奏楽部 演奏

- ・演奏のみで帰るご家族も多かったが、後続のイベントに参加された方も多く、集客効果は大きかった。
- ・9年生にとって良い演奏機会となり、生徒、学校、保護者の皆さんから評価され、今後も学校との連携を模索したい。

② 基調講演

テーマ：「みんなで創る佐久穂の未来」 講師：元長野県副知事 中島恵理 氏

- ・アンケートでも「分り易かった」「参考になった」との感想が多く寄せられ好評であった。
- ・基調講演だけで帰る人もあり、多くの町民が注目する講演会となり、テーマ、知名度とも時宜を得た講演となった。

③ 分科会

A分科会：地方政治の未来

- ・テーマがやや漠然として、議論が深まらず「議員のなり手不足対策」等、より具体的に設定すべきであった。
- ・議会サポーター制度への期待や女性や若い人の議会参加など、多様な意見が出され、まとめる時間が無かった。

B分科会：佐久穂の未来

- ・農業と道の駅グループは一般参加者が4名と少なく、ご意見は伺ったが議論を深めるところまでは至らなかった。
- ・それでも、町の活性化に繋がる独自のもの(道の駅)を造るべき、農家と協力した商品開発や売り場づくり、多くの人が楽しみながら出荷できる体制づくりなど幾多の提案をいただき、町との情報共有協議の中で検討したい。
- ・観光と道の駅)グループでは、八ヶ岳の観光資源を活かす、デジタル活用・アプリで周遊に導く、道の駅から観光地までの交通手段の確保、観光情報を町民や他地域への広報等多様な意見が出されたが、議論を深められなかった。
- ・佐久穂の未来グループ

佐久穂町の未来を考える上で、町の進むべき道、投資の形、将来のビジョンが見えない、危機感がない等々の意見や課題が出されたが、議論を深めるに至らなかった。本グループ参加者の希望者で別途町民交流会を実施することとした。

Cグループ：子どもの未来

- ・小中学生グループ1、中学生グループ3、大人グループ2に分かれワークショップを展開した。
- ・4つの子どもグループはファシリテーターのリードの下、20年後に町に欲しいものや、そのためにどうするか等、活発な意見交換ができた。
- ・大人グループでは1グループは残念ながらワークショップとしての発言、意見交換をすることが出来なかった。2グループでは20年後の子どもたちのために、働く場所や人口対策、公共交通など多様な欲しいものや要望が出され、子供を思う大人の意見が出されたが、集約には至らなかった。このほか、子ども議会の開催についても意見があった。

3. 課題と反省点

- ・分科会の協議テーマの具体的な設定と事前周知、ワークショップ進行技術のスキルアップ。
- ・時間の制約で深めることの出来なかった協議事項への対処、町民交流会等での議論の深化対応。
- ・提案された各種ご意見に対する議会としての検討など、課題への取り組みに関する情報共有と広報の拡充。

以上